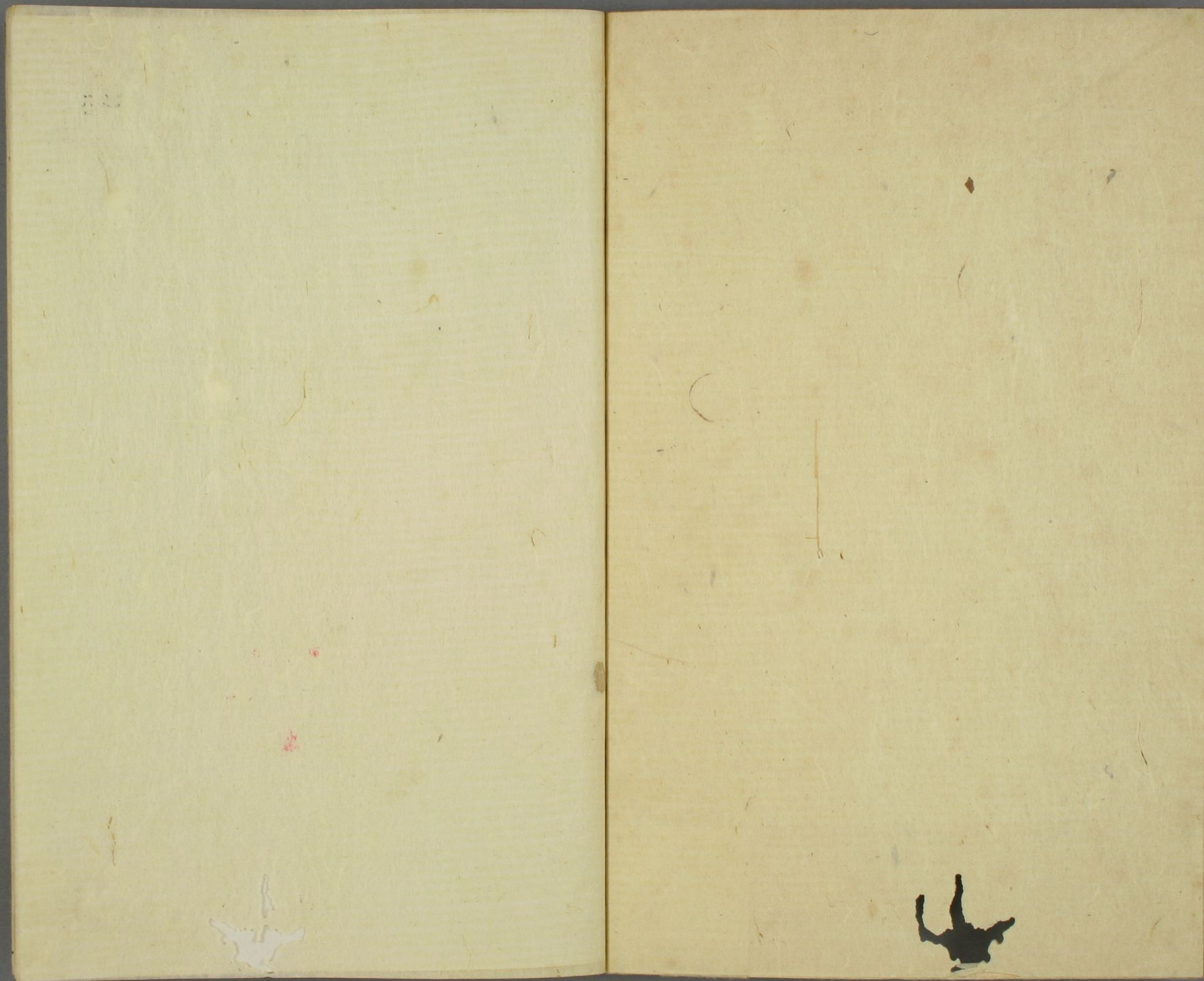




寶沈氏康氏真跡取和款

特別  
4  
5585





門 八八  
號 5585  
卷

詠十五首和歌



山時向

氏康

あまのついでにふりかへりてかたむねのちかき

實陀



美穂の里を今もいふまゝに箱根のしほをいふ

氏貞

いふまゝの山をいふまゝに箱根のちかき

氏康

氏康

箱根の山をいふまゝに箱根のちかき

早稲田 大學 図書館  
昭 34.6.1 類  
藏 書

安達

高橋の凡のなまむらぎのつらき

氏三

後三月十日、多分やけのまふ人の

初言

氏康

安達とて起し、ねむり宿のあつち

言

まふくし、妙なり、神のつらき

氏貞

高橋の凡のなまむらぎのつらき

若所言

安達

高橋の凡のなまむらぎのつらき

氏康

高橋の凡のなまむらぎのつらき

氏貞

高橋の凡のなまむらぎのつらき

初言

氏康

高橋の凡のなまむらぎのつらき

上野や佐世の昔もあつたか  
世にたつたか  
宇津

氏三

こけの宿を根と白きの花を  
花

初志

實隆

ふらふらの心は  
花

氏康

登交はと際  
不祥

氏三

高ははのいのち  
花

初志

氏康

あまを約さ  
花

宇津

の福を  
花

氏真

あまを  
花

初志

實隆

あまを  
花

氏康

此の事もくたのむら落しに神のまをそよち落り

氏康

おのれ我のつらき事よらちをぬはらちり

氏康

我の事おと様事よらちのつらき事よらち

氏康

ま海の事おのれつらき事よらちのつらき事

氏康

おのれつらき事よらちのつらき事よらち

歎

氏康

おのれつらき事よらちのつらき事よらち

氏康

おのれつらき事よらちのつらき事よらち

氏康

おのれつらき事よらちのつらき事よらち

浦

氏康

おのれつらき事よらちのつらき事よらち

あま今羊山くしよあまよいらくわんこのうけ

氏貞

たふふのいんかふたふたのうらふたふたのうらふた

族

室院

約高まをまをわいふれはうらふたの神をうら

氏康

うら拂ひ行なふらんまのはれあふゆら冬の時

氏玄

じういふくあつ人の影もあ月じいのまねたよ

う家

氏康

ふらふあの中へ白者のまをらん人の老の友をら

う澄

ねふふぬ甲のうらねらあ何ういふ

氏玄

あふ入らのわねいふうらむらむらむらむらむらむら

田后

室院

ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら

氏康

中しきまゝかゝるに摩りし同位よりなり居

氏真

人<sup>なり</sup>かゝる位者も心よりしたのこしよあまの友のあは

祓

氏康

ら<sup>なり</sup>のよのよのりもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

市院

ち<sup>なり</sup>のよのよのりもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

氏真

ち<sup>なり</sup>のよのよのりもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

此一巻にても奇物の御所を有る言に肝  
了結の劣悪の者判の勿痛も好く思者  
なりは流るる知りなり業なりけ道を得る言を  
何れ先雪成映ふる言をいふもいふもいふも  
いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも  
洋を眼よりかき廻りぬの松を月をくはりあき  
なりしにのゆらゆらと色はし御功と入念  
心成し不思議も命併し我も此界をえんま  
なりしにのゆらゆらと色はし御功と入念



乞北吉也の所は中しくなをさるるひま  
とそくし中まうしそく厳令のし  
女柳の顔よりそく余行もさるるを顧り  
たる所の所候ゆきそく雲保の所候  
のひまりし

十五首の内五眼法をなす

かむ 夜余 雷 二つたよ

約志 歌 浦

山家 因后 祝

右ノ首ノ類今ニ殊勝ナクハ此ノ言  
下進ハい<sup>ハ</sup>去<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>憚<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>所<sup>ハ</sup>也

一合玉ノその内約志初くおさるる言  
ゆき進んを代と作る乞神と証は未だ  
湖上塔の所にお首と外と撰と一風信と目  
とむららるる所は公考と頭と并初雷の眼  
と急集とゆきし落余と穴とまわくの  
御一与乞又らるる新妻と返向し  
山家因后と首新境と山家感と

後公歌と申す所の福物淋くむにほり  
言語道断と云ふ御福をく一唱之勤の  
早も成行しつる成約の忠祝ゆぬ有や、奇  
物祚爰に依

一御福の分て中蔵令りてまは儀表のこころ  
巧言令色とや早もつと吹毛の強をやり水也  
五修めると申すは併り化世のこころ

右所音

花のうたを音は明なりと云ふと云は明なりと  
けりそあつねは高き事と云ふはやうにおとす御くぬと  
みまをさる

漢音

うふんよたのうらうらふらふらふらふらふら  
八重のうらうらふらふらふらふらふらふらふら  
御くじわ文字にりりりりりりりりりりりり  
このまのうらうらふらふらふらふらふらふら  
よちかふらふらふらふらふらふらふらふらふら

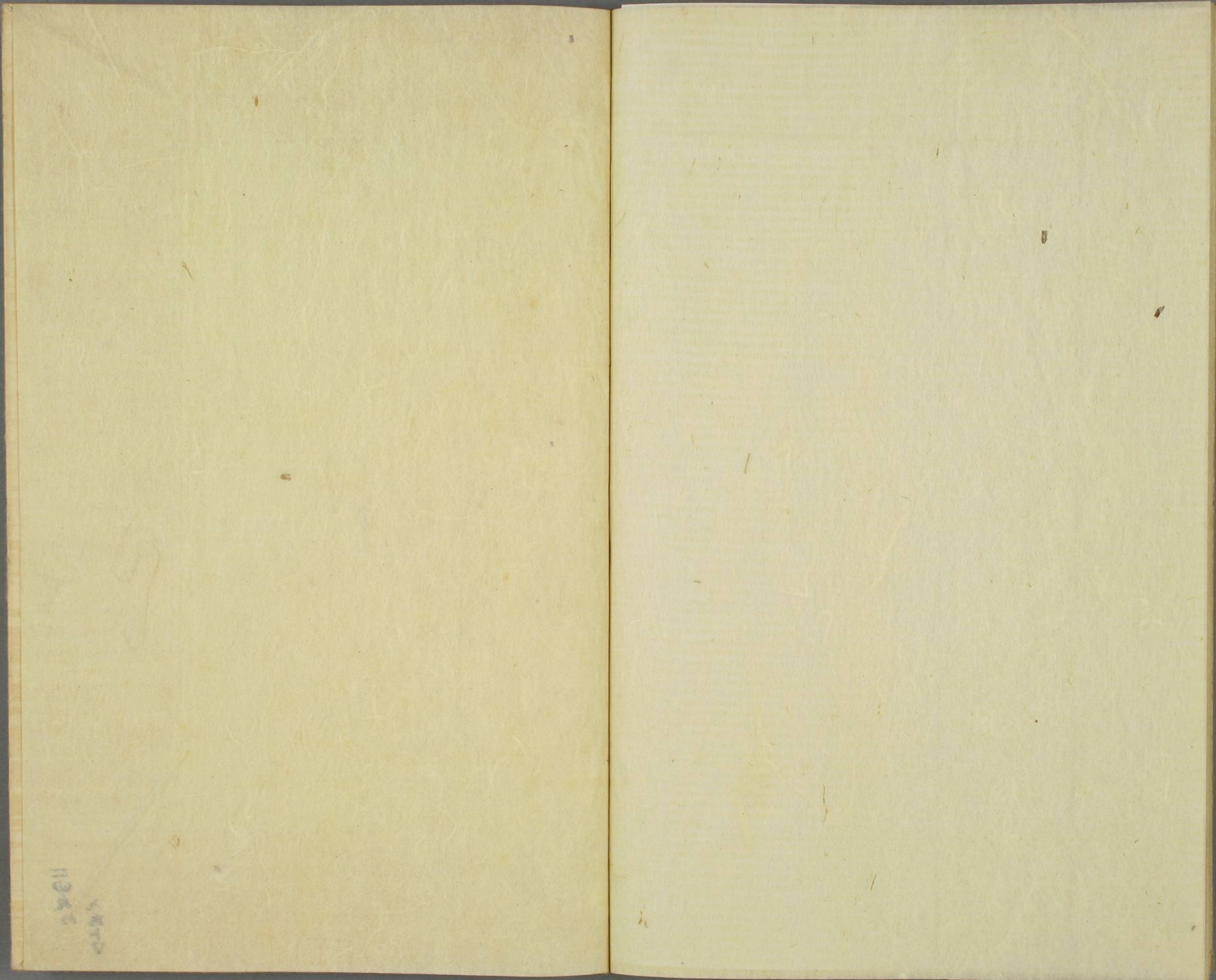
岡居

中しこのみ文字此所海はあつてははるよ然が  
此の文字名達ののまゝのい一首と尾大事時  
世一の住しあうらよ河まもそののまゝ  
そま候よのりくは秋候くは海の時建ま  
あかしく都てのり物とあやう

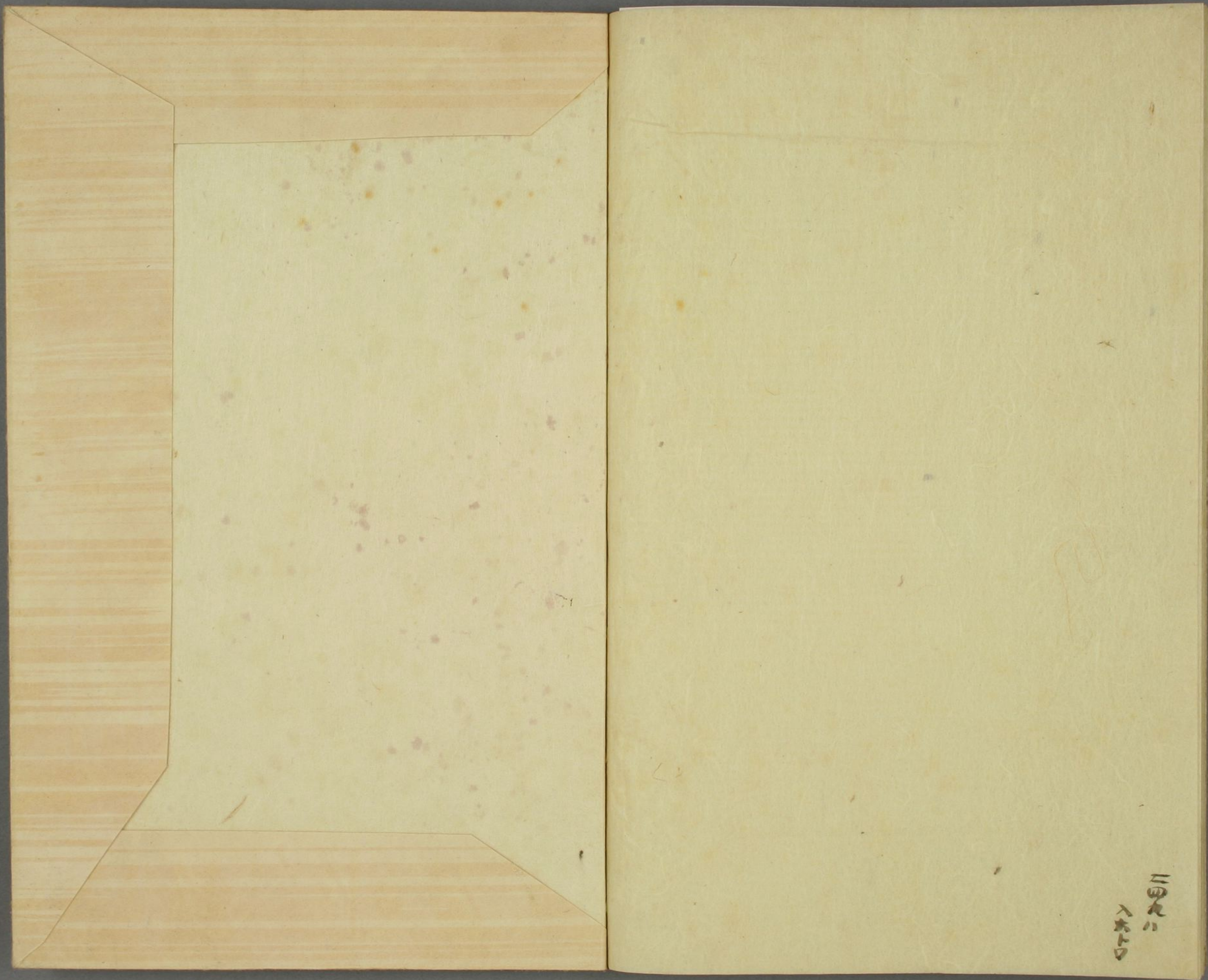
ち田大長実院と 之妻後 氏康 以隆

氏貞 今川 之のくはを初也

實隆と 道達院殿 即常也



11345  
KRTD



1130  
K. 1130

